

# 令和2年度 萱田南小学校 研究計画

## 1 研究の目的

- (1) 新しい時代に対応できる「生きる力」を育てる
  - ・学校教育目標「国際社会にはばたく南の子 ～夢と自信をはぐくむ～」の実現に向け、社会の激しい変化に対応できる資質や能力を身につけ、夢をもって自分の将来を自分で切り拓いていく児童の育成を目指す。
- (2) 新しい教育の在り方を学び、実践する
  - ・新しい教育の在り方を学び、教育実践にあたる。そのために研究と研修を一体化させる。
- (3) 教育専門職として必要な、資質・指導力の向上に努める
  - ・学校教育目標「国際社会にはばたく南の子 ～夢と自信をはぐくむ～」の具現化に向けて日々の指導力を高め、教育実践に努める。

## 2 研究主題と設定の理由

### (1) 研究主題

**共に考え、深い学びを実現する学習をめざして**

### (2) 設定の理由

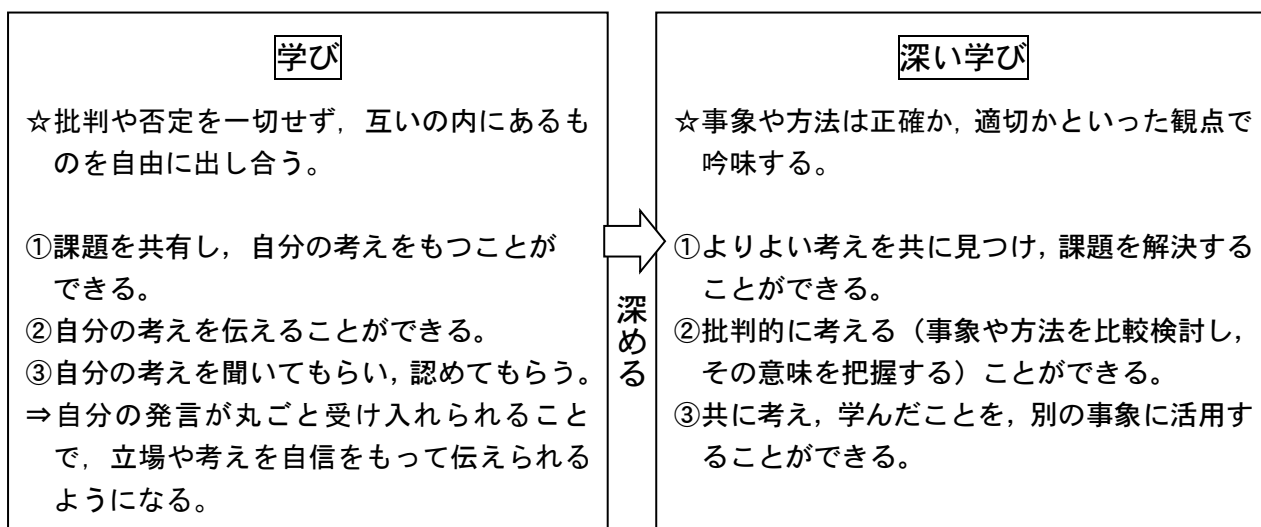
本年度から全面実施された新学習指導要領では、授業改善の視点として「主体的・対話的で深い学び」が掲げられている。本校ではこれまでの校内研究や児童の実態を踏まえて、研究主題として「共に考え、深い学びを実現する学習をめざして」を設定した。

#### ① 共に考える

これまでの授業では、教師からの発問に対しての受け答えをする場面が多かった。この場合、答える児童と教師で対一の関係になりやすく、ほかの児童は傍観者になってしまう。この状況を改善して、児童がより主体的に学ぶために、「共に考える」という視点を設定した。

#### ② 深い学びを実現する

本校では「学びを深める」ということを、以下のように定義した。



文部科学省では「深い学び」について、各教科の見方・考え方を働かせながら、知識の関連付けや情報の精査、解決方法を見出していくことで達成できるとしている。単に考えをもつだけでなく、自分の課題としてとらえ、批判的に考えたり、学習で得た知識を活用したりする姿を目指していきたい。そのために「深い学びを実現する」という視点を設定した。

### 3 研究教科と研究体制

#### (1) 研究教科

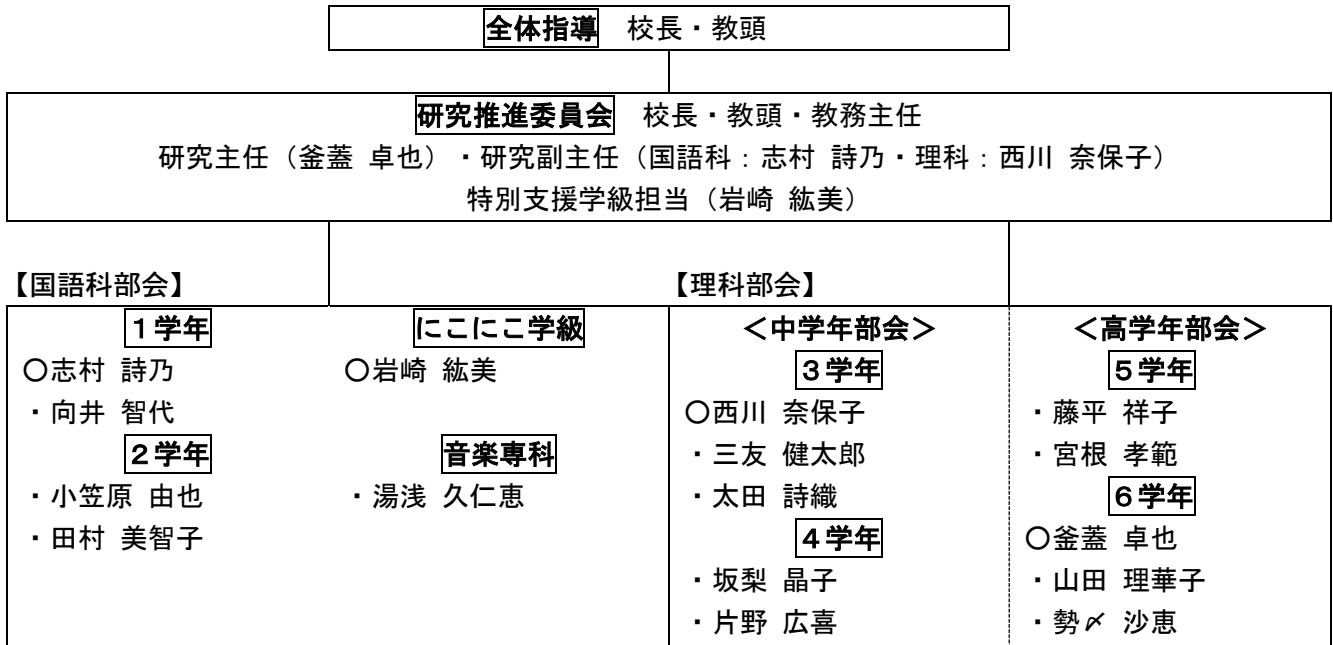
○低学年・特別支援学級 国語科

○中学年・高学年 理科

→昨年度に引き続き2教科で研究に取り組み、成果や課題を共有し合う。

#### (2) 研究体制

##### ① 校内組織



- 国語科部会（1部会）と理科部会（2部会…中学年部会，高学年部会）とする。
- 年間を通して，1人1回以上は授業研究を行い，部会内で相互に意見交換をする。
- 研究主任と研究副主任を中心として，少人数で意見交換をしやすい環境にする。
- 研究全体会として，2教科の研究内容を相互に学ぶ時間を設定する。

##### ② 年間の主な流れ…研究計画の樹立，授業研究を通じた改善

###### 1 学期

- ・学習指導要領の内容や授業の様子などをもとに，児童の実態把握を行う。  
＝育てる資質・能力の設定 ⇒教科書等の素材の教材化（単元構成の工夫を含む）
- ・指導案をもとに部会で検討するとともに，講師から指導・助言をうけ，研究授業を実施する。

###### 夏季休業

- ・1学期の授業を振り返り，2学期に向けて授業研究を進める。

###### 2 学期

- ・指導案をもとに部会で検討するとともに，同じ講師から指導・助言をうけ，研究授業を実施する。
- ・指導室訪問に向けた準備を進め，授業研究に取り組む。

###### 3 学期

- ・指導室訪問で，国語科・理科以外の教科に対する研究を深める。
- ・今年度の研究の成果と課題をまとめ，次年度の計画を立てる。

##### ③ 指導講師

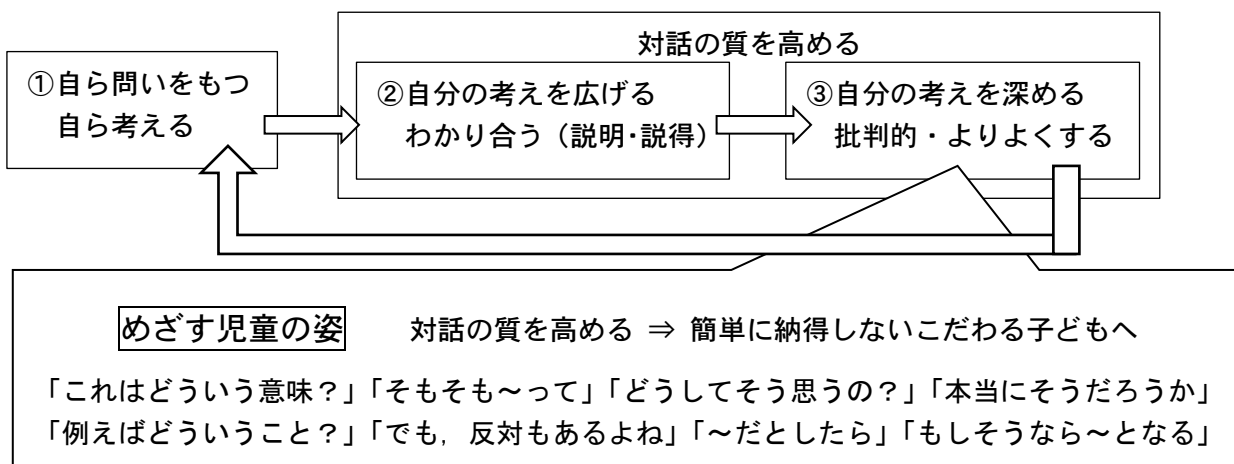
国語科部会	富津市立天羽小学校 校長	横田 経一郎	先生
理科部会	中学年部会 八千代市教育委員会 主任指導主事	目黒 大樹	先生
	高学年部会 八千代市立高津小学校 教諭	井桁 孝之	先生

## 4 研究仮説と研究の重点

### (1) 研究仮説

育てる力を明確にし、教師の働きかけを工夫すれば、よりよい考えを共に見つけ、課題を解決し、深い学びを実現することができるだろう。

「共に考える」「深い学びを実現する」という2つの研究主題を達成するために、育てる力の明確化、そして児童に対する教師の働きかけを仮説として設定した。本校では学びが深まった児童の姿を、以下のように想定している。



教師から与えられた問題に対して、受け身で考えるのではなく「自分はこうしたい」「どうすれば解決できるのか」といったように、自分の問題として捉えられるようにしたい。また、対話の質を高めることで、研究主題でも定義したように、

- ① よりよい考えを共に見つけ、課題を解決することができる。
- ② 批判的に考える（事象や方法を比較検討し、その意味を把握する）ことができる。
- ③ 共に考え、学んだことを、別の事象に活用することができる。

という3つを「学びが深まった姿」として達成できるようにしたい。

育てる力は、以下で示した各学年の「思考力・判断力・表現力等」「見方・考え方」をもとに、発達段階や学級の実態に合わせて設定する。低学年は考えの形成過程を踏まえて、思考力・判断力・表現力を養っていく。また中学年・高学年は、国語科の学習を生かして、理科の「見方・考え方」を育てていく。

学年	国語科「考えの形成」 ①話す②聞く③話し合う④書く⑤読む	「思考力・判断力・表現力等」「見方・考え方」	
		国語科	理科
1	① 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す内容の順序を考える。 ② 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聴き、話の内容を捉えて感想をもつ。 ③ 互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐ。 ④ 言葉や文のつながりに注意しながら、内容のまとまりが分かるように表し方を工夫する。 ⑤ 文章の内容と自分の体験を結び付けて、感想をもつ。	順序立てて考える力や、感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができる。	/
2			

3	① 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように構成を考える。 ② 必要なことを記録したり質問したりしながら聴き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつ。	筋道立てて考える力や、豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができる。	相違点や共通点を基に、問題を見いだす力  ★複数の事物・現象を対応させ比べる。
4	③ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめる。 ④ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫する。 ⑤ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつ。		既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する力  ★事物・事象を様々な視点から関係付ける。
5	① 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考える。 ② 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる。 ③ 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりする。		予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力  ★事物・事象に関係する条件とそうではない条件を制御する。
6	④ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想・意見とを区別して書いたり、引用や図表・グラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。 ⑤ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる。		より妥当な考えをつくりだす力  ★事物・事象を多面的に考察する。

これら仮説をもとに、以下の2つの重点目標を立て、その達成に向けた手立てを考えていく。

## (2) 研究の重点と手立て

**【重点1】対話を中心として、主体的な深い学びを実現するための教師の働きかけを考える。**

### <手立て>

- ① 「対話的な学び」にするために、明確な目的のある交流の工夫をする。
  - ・対話の前に自分の考えを書く時間を設定する。
  - ・自分の考えとその根拠、理由を示して対話をさせる。
  - ・多様な考えが生じる場面を意図的につくる。
  - ・目的に応じて、対話の人数や形態を工夫する。
  - ・必要感のある交流の場の設定をする。(時間とタイミング)
  - ・交流活動を行う際には、自分の考えをわかりやすく伝える工夫をさせる。(「問い返し」)
  - ・対話の土台となる「話す・聞く」のスキルを身に付けさせる学習指導の工夫をする。
  - ・新たに気付いた考えは、赤ペンや青ペンで書き加えさせる。(ノート指導の充実)

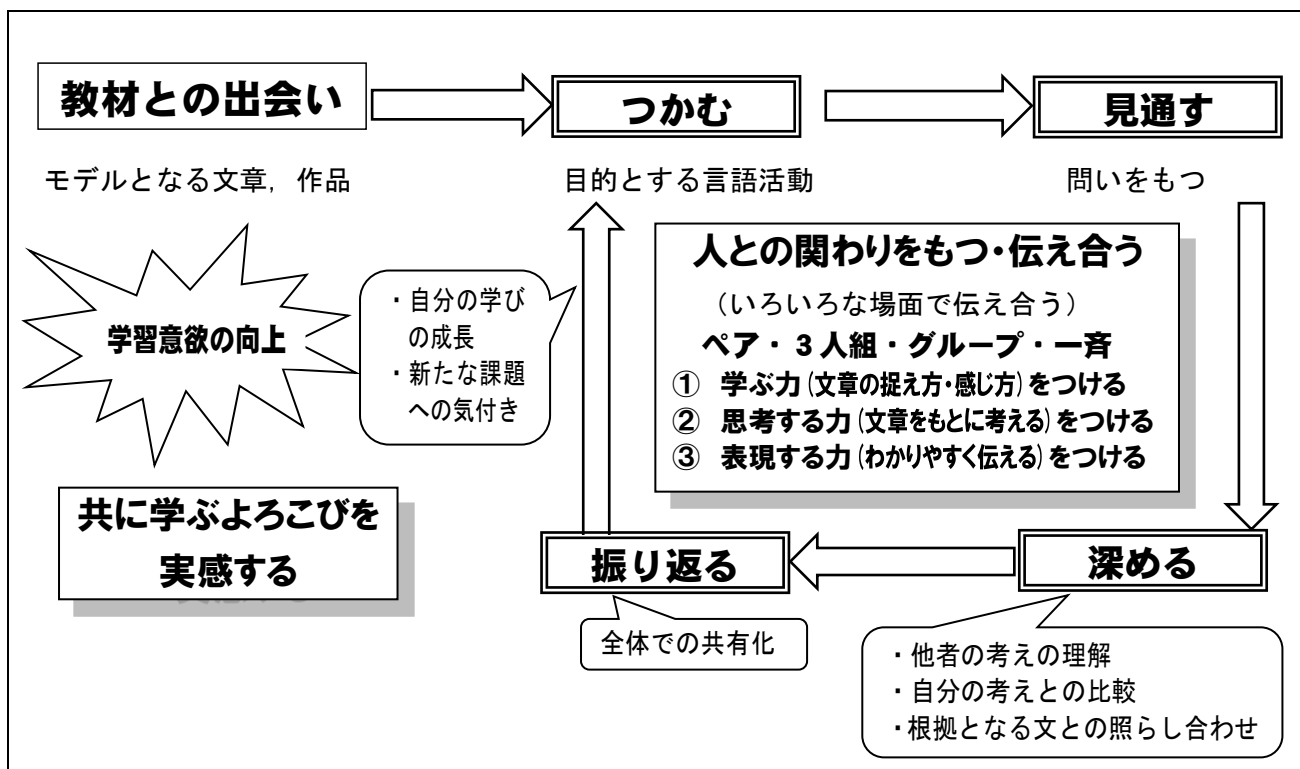
- ② 「主体的な深い学び」につなげるための教師の働きかけを工夫する。
- ・ 教師が教える場面と児童に思考・判断・表現させる場面を効果的に設定し、関連させながら指導していく。
  - ・ 児童の交流が次の学習活動につながるための働きかけ（手立て）を工夫する。
  - ・ 児童から出る多様な考えを生かして、理解をより確かにするための働きかけを工夫する。
  - ・ 自分の学びを自分の言葉でまとめる時間を確保する。→自己評価の場の設定
  - ・ 考えの変容や新しい気づきを共有する場面を設定する。
  - ・ 実生活や既習の学び、他教科等との関連を価値付ける。
  - ・ 学びを他の場で活用したり、新たな疑問を生み出したりする情報提供の場の設定をする。
  - ・ 電子黒板やタブレットPCを活用して、児童の意見共有や効果的な資料提示を行う。

【重点2】 育てる力を明確にして、単元構成を吟味する。

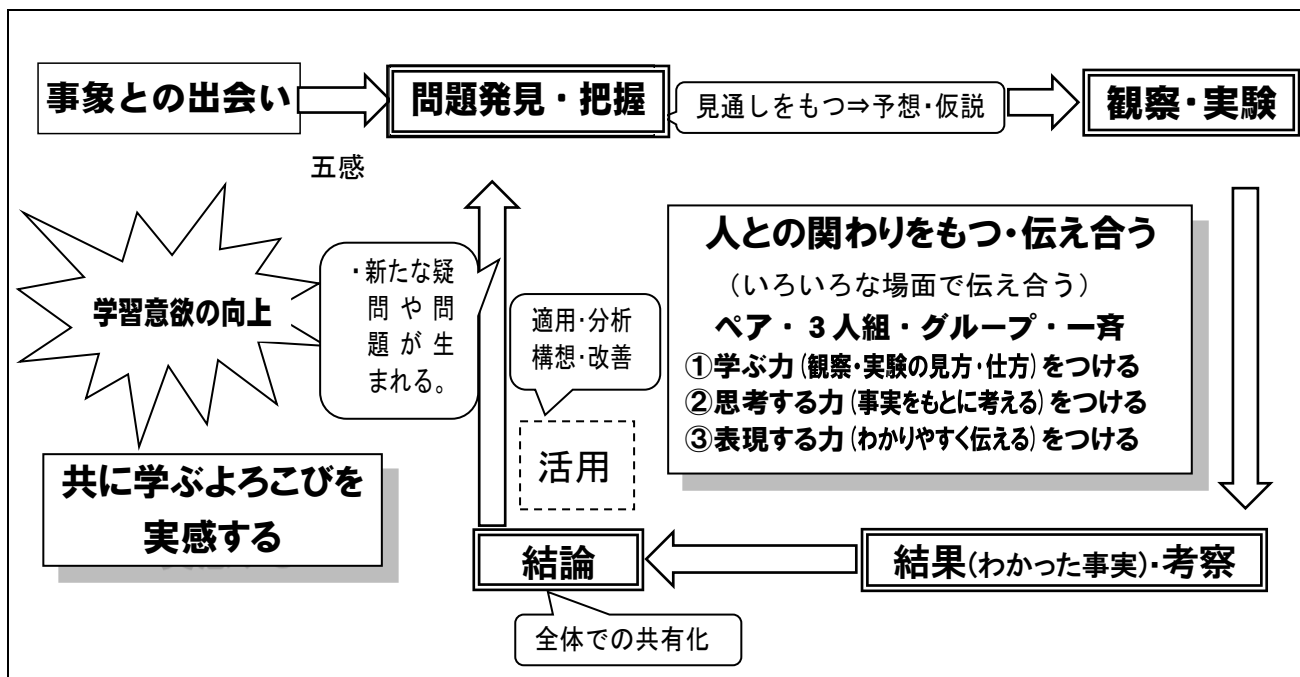
<手立て>

- ① 学習指導要領や児童の実態をもとに「育てる力」を設定し、これまでの研究成果である「課題解決の過程（学びのサイクル）」を活用しながら、どのように育むかを明確にする。
- ・ 学びのサイクルを取り入れることを目的化せずに、児童の実態に合わせて弾力的に活用する。
  - ・ 基本的な知識・技能を身に付けさせ、それをもとに思考し対話する中で、学びを深めていけるようにする。

◇国語科の学びのサイクル



## ◇理科の学びのサイクル



② 「育てる力」をもとに、課題解決的な言語活動を位置づけた単元構成をする。

(国語科)

- ・ 指導事項に適した言語活動を設定し、表現（話す・書く）する場面において、指導と評価を一体化する。
- ・ 学習意欲を高める課題を提示し、児童に問題意識をもたせ、児童とともに学習計画や見通しを立てる。

(理科)

- ・ 児童自身が実験方法を考えたり、結果をもとに考察したりする場を保証する。
- ・ 予想や結果等、一人一人が自分の考えを記述する活動を取り入れる。
- ・ 課題を解決するためにどのような実験をしたらよいかを一人一人考える場を設定する。
- ・ 結果から実験方法を見直し、再度実験する場を保証する。